

土野 研治 教授

芸術学部

障害児の音楽療法を実践

心身障害回復や生活の質向上を目指す 事例研究で新しい可能性切り開く



つちの・けんじ

昭和53年国立音楽大音楽科卒。同年より埼玉県内の特別支援学校に音楽教諭として23年間勤務し、障害児の音楽指導や音楽療法の実践研究を行う。その業績に対し、第2回音楽教育振興賞、下総院音楽賞等を受賞。その後、昭和音楽大助教授などを務め、平成19年に本学芸術学部音楽学科准教授。22年4月から同教授。日本音楽療法学会常任理事、日本演奏連盟会員。認定音楽療法士。著書に「心ひらくピアノ―自閉症児と音楽療法士との14年」(春秋社)、「障害児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション」(春秋社)などがある。東京都出身。61歳。

音楽療法の治療構造を明確にしておくことが重要で、まず音楽療法士が依頼者・クライアント(音楽療法の対象)と、障害児の音楽療法は「音楽を介して障害児の抱える社会的ハンディキャップを軽減させ、少しでも社会生活が営みやすくなるように援助することである」という。

土野教授によると、障害児の音楽療法は「音楽を介して障害児の抱える社会的ハンディキャップを軽減させ、少しでも社会生活が営みやすくなるように援助することである」という。

療法の構造を明確に

土野教授によると、障害児の音楽療法は「音楽を介して障害児の抱える社会的ハンディキャップを軽減させ、少しでも社会生活が営みやすくなるように援助することである」という。

子どもに合った音

実際の音楽療法は現在毎週1回、学部内のセッションルームで、学生と共に行われる。対象は身体障害や発達障害を抱える子ども4人。保護者に連れられ、代わる代わるやってくる子どもたちに対し、土野教授は表情や

実際の音楽療法は現在毎週1回、学部内のセッションルームで、学生と共に行われる。対象は身体障害や発達障害を抱える子ども4人。保護者に連れられ、代わる代わるやってくる子どもたちに対し、土野教授は表情や

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ

出合いが重要

土野教授はこうした事例研究を積み重ねて、音楽療法の新しい可能性を切り開こうとしている。

土野教授はこうした事例研究を積み重ねて、音楽療法の新しい可能性を切り開こうとしている。

土野教授はこうした事例研究を積み重ねて、音楽療法の新しい可能性を切り開こうとしている。

土野教授はこうした事例研究を積み重ねて、音楽療法の新しい可能性を切り開こうとしている。

土野教授はこうした事例研究を積み重ねて、音楽療法の新しい可能性を切り開こうとしている。

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ

土野教授は本来、国立音楽大学を卒業したバリ



2015年9月、音楽学科音楽教育コースの合宿で(軽井沢セミナーハウス)

柿崎 隆夫 教授

工学部

サステナブルシステムの発信基地として

“ロハスの工学”をベースに 持続可能な社会環境を構築



かきざき たかお

昭和54年東北大学大学院工学研究科博士課程前期修了。同年日本電信電話公社(現NTT)入社。マサチューセッツ工科大客員研究員、NTTヒューマンインタフェース研究所研究部長、NTT理事、同研究開発部門R&D統括チーフプロデューサーなどを経て現職。工学博士、本学工学部工学研究所次長。秋田県出身。

NTT研究開発本部のチーフプロデューサーとして、サービスに関する研究統括とインターネットサービス事業に取り組み、土野教授が、本学に転身したのは2010年。57歳の時だった。それ以前の実績を振り返ると「磁気ディスク装置」「知能ロボットシステム」、さらに「映像通信サービス事業」の研究開発など枚挙にいとまがない。

NTT研究開発本部のチーフプロデューサーとして、サービスに関する研究統括とインターネットサービス事業に取り組み、土野教授が、本学に転身したのは2010年。57歳の時だった。それ以前の実績を振り返ると「磁気ディスク装置」「知能ロボットシステム」、さらに「映像通信サービス事業」の研究開発など枚挙にいとまがない。

NTT研究開発本部のチーフプロデューサーとして、サービスに関する研究統括とインターネットサービス事業に取り組み、土野教授が、本学に転身したのは2010年。57歳の時だった。それ以前の実績を振り返ると「磁気ディスク装置」「知能ロボットシステム」、さらに「映像通信サービス事業」の研究開発など枚挙にいとまがない。

NTT研究開発本部のチーフプロデューサーとして、サービスに関する研究統括とインターネットサービス事業に取り組み、土野教授が、本学に転身したのは2010年。57歳の時だった。それ以前の実績を振り返ると「磁気ディスク装置」「知能ロボットシステム」、さらに「映像通信サービス事業」の研究開発など枚挙にいとまがない。

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ

柿崎教授は現在、そ



2012年6月、リオデジャネイロで開催された国連持続可能な開発会議「Rio+20」で基調講演を行う柿崎教授